

## ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立森田養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	数えてみよう・足し算をしよう		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10までの数を読んだり、選んだりすることができる。</li> <li>・和が10までの足し算をすることができる。</li> </ul>		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	1・2・3 年 4 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 1・2・3年生の複式学級である。1～5までの数を読むことができる児童や、数字を丸や棒などの記号で表して、和が10までの足し算をすることができる児童がいる。 ※例：1 (○) + 2 (○○) = 3		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 iPad		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 算数忍者～たし算ひき算の巻～ （足し算の問題に正答すると、忍者が敵を倒し、何問か連続で倒すと次のステージに進むことができるゲーム。答えは3択の中から1つ選ぶ形式で、誤ったものを選ぶと敵を倒すことができない。）		アプリマーク 
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援 )		
	ICT活用のねらい	ゲームをしているような感覚で、楽しく飽きずに、数字に触れたり足し算を学んだりすることができる。 1～5までを読むことができる児童は、10まで数を広げ、見てすぐに数字を読むことができるようになることをねらい、指導者が話した足し算の答えを聞き、3択からすぐに正答を選ぶことができるように繰り返し取り組んだ。 和が10までの足し算ができる児童には、数字を丸や棒で表さなくても計算できるようになってもらいたいと考え、繰り返し取り組んだことで、足し算を素早く計算するコツを掴み、暗算で答えを出すことができるようになってきた。		
活用の状況と支援	※ICT活用場面と行った支援について記入する。 今のところ iPad が学級に2台しかないので、授業では4人一斉に使うことができず、プリント学習と併用した。授業だけでなく、休み時間などの余暇の時間も使って、復習する様子が見られた。			